

令和7年度 事業報告書
上鳥羽南部いきいき市民活動センター

【指定管理者：株式会社丸起】

目次

1. 管理運営の状況	1
1 施設運営業務	1
(1) 職員体制	1
(2) 貸館等	1
(3) 情報発信等	2
(4) 管理運営	3
(5) その他	3
2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業	4
1. 市民活動支援・活性化事業	4
1. 上鳥羽六斎念仏 発表会 (6/22)	4
2. 上鳥羽六斎念仏 勉強会 (11/23)	6
3. 歌声サロン (第 1, 3 金曜日)	8
4. 健康体操 (第 1, 4 木曜日)	10
5. 卓球交流会 (9/20)	12
6. 鯉のぼりによるまちづくり (2/6, 3/7, 3/14)	14
7. みんなの文化祭 (3/15)	16
8. いきセンのある地域を知る (12/14)	18
2. サロン運営・活用事業	20
1. マージャン交流 (第 1, 3 月曜日, 第 3 木曜日)	20
2. 造形教室 (第 4 日曜日)	22
3. フラワー教室 (第 2 土曜日)	24
3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算	26
4. 施設の利用者満足度の把握	26
5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価	29
6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項	29

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 5 名（常勤 3 名、非常勤 2 名）

【人材育成の取組】

貸館業務や SNS への投稿といった情報発信などを全職員が同じレベルで行えるよう、実務をとおしてスキルアップに努めた。また、市民活動に詳しい者を非常勤スタッフとして採用し、概ね月 2 回程度事業の企画や実施についての意見交換をし、また月 1 回のミーティングを行いセンター職員の力量の底上げに努めた。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
83	92	91	89	101	99	96	91	74	77	89	82

(年間) 1064 件（前年度比 120%）

(参考：令和 6 年度 884 件、令和 5 年度 726 件、令和 4 年度 642 件、令和 3 年度 552 件)

イ 利用状況

○年間での利用状況について

利用件数の内訳は、第一会議室約 71%、第二会議室約 11%、第三会議室約 18%。利用時間は、第一会議室 65%、第二会議室第 12%、第三会議室 23%であった。

第一会議室は、利用の 83%を卓球が占めており、平日と土曜日の午前・午後はシルバー世代が、日曜日は家族での利用が多い。日曜日はその日に空き状況を確認してから利用されるケースが多かったが、日曜日・祝日に定期的に利用するグループが増えてきている。どの時間帯も利用が増えており、主に楽器や音楽練習での利用が増えてきている。

第二会議室は利用が増えており、新規利用者による楽器練習で利用された。

第三会議室も利用が増え、前年度の 1.5 倍になっている。楽器練習や事業とは別のマージャンで利用された。

事業者利用は件数は少ないが、センターの近くにある事業所が面談で利用された。また、久世包括支援センターと陶化包括支援センターとが合同地域ケア会議で利用し、センターからも数名が同席して今後のセンターの利用、活用について意見交換を行った。

○課題や改善が見られた部分

- ・利用は第一会議室に偏っているが、第二、第三会議室の利用も増えており、全体として増加した。
- ・日曜日の利用が増えてきている。
- ・新規利用者はリピーターになっていることが多い。

ウ 利用促進に向けた取組

○センターで取り組まれたこと

利用者が過ごしやすい環境づくりに力を入れている。来館時や退館時の挨拶や声かけ、ちょっとした相談事への対応などで、職員に親しみやすさを抱いてもらえるように努めた。

来館者向けに、1ヵ月間の会議室の空き状況の一覧を作成掲示しており、利用申請の際に空き状況を確認するための資料として活用した。

第三会議室のレイアウトを変更した。以前は、ローテーブル2台を囲むようにソファを置いており、手狭であり備品は動かしにくいものであったので利用方法が限られる状態になっていた。備品を動かしやすくすることで部屋を広く利用できるようにするため、ソファやローテーブルを処分や移動し、会議机とパイプ椅子に入れ替えた。利用者からは、ローテーブルでは低かったので使いやすくなったとの意見が寄せられた。

倉庫として使用していたキッチンの横にある旧浴場の事務スペースを、座りやすいレイアウトに改めて、会議室の入室までの待機場所としてやちょっとした休憩・交流スペースとして活用した。

以前からダンス利用の方からの要望があったため、折り畳みの姿見を導入した。ダンス以外にも、体操や音楽練習の方も利用されており、好評である。

エ その他

○サロンについて

令和元年度～7年度の利用状況

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
件数	119	19	47	219	330	313	350
人数	1010	127	247	994	1739	1678	1829

令和6年度に比べて、件数と人数が増加した。サロンはサークル活動や事業で利用しており、利用状況がわかりやすいようにサロンの利用状況一覧を作成し配布した。事業とは別のマージャンサークルの方がこの一覧を活用して、空いている時間に利用された。その他会議や、早く来館された利用者が時間待ちをするためといった利用があった。散歩途中に立ち寄って休憩をする、といった利用はなかった。

サロンの畳は古くなって毛羽立った状態になっており、以前から利用者から指摘があり、上敷きを導入することで対処した。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

○SNSをはじめとする広報媒体により、情報発信に積極的に取り組んだ事例について

センターのHPに、事業の実施風景の写真などを一覧表示で掲載し、わかりやすいようにした。

Facebook には年間 147 件投稿した。事業の実施予告や実施風景を写真や動画で投稿し、どのようなことをしているのかをわかるようにして親しみを感じるようにし、初めてセンターを利用しに来る方が来館しやすくなるような紙面を心掛けた。

「ジモティー」には、継続してセンターの情報を掲載した。

事業の参加者募集では、イベント周知チラシを地域回覧板で回覧し、各センターや市の施設等へ配架依頼をするほか、一部の事業については参加予定者に SNS へ投稿していただけるよう協力を仰いだ。

- センターの認知度向上だけでなく、市民活動に関わる様々な情報を工夫して周知された取組
センターに持ち込まれたチラシは、了解を得て Facebook へ投稿した。また、上鳥羽地域のことであれば実際に赴いて取材し、写真や動画をアップした（上鳥羽六斎念仏や、地域の寺院や施設のイベントなど）。

イ 取組の効果

- アの取組により効果が見られた事例

初めて来館される利用者には、どのようにしてセンターのことを知ったのかヒアリングを行っている。センターを利用している知人から紹介された方が多いが、ネット検索で当センターのホームページや「ジモティー」で見つけたという方もあった。ネット検索では範囲を“京都市南区”で検索してもヒットしないが、“上鳥羽”とすると「ジモティー」にヒットするので、今後も活用していく。

また、事業者利用では、会社の近くにある貸会議室を探していて「ジモティー」にたどり着いたという方があった。情報発信の取組が貸館について効果が出ていると考えている。

（４）管理運営

- 防火管理者の選定、建築物の保守管理、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業務、保安警備業務、植栽等保全業務の実績について

- ・センター本館 1，2 階の窓ガラスを中心とした清掃業務、建築設備と消防設備の定期点検等を実施。
- ・館内照明の LED 化、トイレ改修を実施した。
- ・備品について、老朽化した卓球台や故障した複合機を廃棄した。

（５）その他

- 「施設運営の質を高めるための取組」や「将来に向かって地域と共に進化するための取組」で実施したもの

- ・「施設運営の質を高めるための取組」として、月 1 回センター職員による会議（センター会議）を実施している。定期開催することで課題を共有することができ、管理運営についても点検や保守などを計画的に行った。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

1. 市民活動支援・活性化事業

【事業名】上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～ 取組① 発表会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年6月22日（日）12時30分～15時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数： 33名
- 4 協力団体等：上鳥羽橋上鉦講中
- 5 予算： 197,000円 / 決算： 56,080円

1 事業内容

センターと上鳥羽橋上鉦講中（以下講中）が共催で行った。参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、チラシ等を活用して募集した。

第1部 「上鳥羽六斎念仏のあゆみ」と題して、講中と上鳥羽六斎ジュニアの成り立ちや歴史、現在の活動内容や講中の魅力について紹介する。

第2部 ①上鳥羽六斎ジュニアによる「四つ太鼓」の実演

②「四つ太鼓」の演奏体験

上鳥羽六斎ジュニアの指導で、参加者が四つ太鼓の演奏体験をする。

③新規会員の募集

○評価委員会から指摘された事項と改善点

- ・講座型のスタイルに留まっている。
- ・参加者同士の交流や関わりが希薄。

2 準備段階での工夫

- ・事業内容の相談の際に、講中は演者やスタッフといった担い手が少ないため、募集を行いたいとの意見があった。一般向けに広く募集活動を行ったことはないということだったので、内容について検討する中で、講中や上鳥羽六斎ジュニアがどういった団体であるかを参加者に紹介する時間を設けてはどうかとなった。資料作成や会員の募集チラシの制作は、講中が行うことになった。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・六斎念仏についての担い手の育成と地域の人材の発掘を目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・講話の中で上鳥羽六斎念仏の現在の様子が語られたことで、講中と上鳥羽六斎ジュニアがどういった団体であるか理解を深めることができた。

- ・発表会ということで出演者の保護者も来られており、地域住民や保護者に練習の成果を披露することができた。
- ・今回の参加者の中から、後に講中の会員となった方が現れたと聞いている。目標としていた人材の募集については、一定の成果があったと思われる。

4 今後の抱負

- ・「四つ太鼓の演奏体験」は、事前に担当者全員が集まることができず、内容についての打ち合わせが十分にできていなかった。講中および参加者の双方に好評であったが、事業の進め方について改善していきたい。
- ・上鳥羽六斎念仏を地域をあげて伝承、保存、支援していくために、方法について講中とも話し合い、他の団体と連携できることがあるかも検討していきたい。

事業風景の写真



【事業名】上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～ 取組② 勉強会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年11月23日（日）13時～16時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数： 7名
- 4 協力団体等：上鳥羽橋上鉦講中
- 5 予算： 107,000円 / 決算： 48,620円

1 事業内容

「空也上人絵詞伝を読む」と題し、上鳥羽六斎念仏に関係する古文書を参加者とともに読んでいった。配布資料の作成には、講中とセンターが協力した。参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、チラシ等を活用して募集した。

六斎念仏についての説明、「空也上人絵詞伝」についての説明、実際に古文書を読んでいく、質疑応答という順に行った。古文書を読む際は、講師が読み内容を解説していくのではなく、参加者が1文字ずつ読み、講師が解説を加える形とした。

○評価委員会から指摘された事項

- ・講座型のスタイルに留まっている。

2 準備段階での工夫

- ・講中との話し合いの中で、地域住民に講中の活動に興味を持ってもらうために、講中が所有している古文書に関連する物語を取り上げてはどうか、ということになり実施した。
- ・読む文章は、初めての人でも読みやすい江戸時代の刊本のくずし字のものを採用した。
- ・講師からは、参加者が積極的に判読に参加できるような内容にしたいとの相談があり、検討を行った。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・上鳥羽六斎念仏の活動や六斎念仏のことを地域住民に知っていただくこと。また、活動に興味を持ってもらうことで、講中の活動に参加するきっかけを作る。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・講師が一方向的に話すのではなく、参加者が積極的に発言したり質問したりできるような内容になった。
- ・参加者からは「平仮名は読めるようになった」との声があった。
- ・後日、参加者と講中との間で資料の受け渡しが行われるなど交流があった。

4 今後の抱負

- ・アンケートには「地域の事を知るのが楽しいです」という意見があり、今後も地域のことを取り上げた資料を読み解くことで続けていきたい。
- ・修了後にしばらくの間、講中と参加者が会議室に残って会話をされていた。後日、講中からは、参加者と交流の時間があるのは良かったとの意見があり、今後はそのような時間をあらかじめ想定しておき、参加者との交流を深めるきっかけを作っていきたい。

事業風景の写真



【事業名】地域課題事業 取組① 歌声サロン（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第 1,3 金曜日 14 時 30 分～16 時 年 24 回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン、本館 2 階旧図書室
- 3 参加人数：123 人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 389,000 円 / 決算： 382,380 円

1 事業内容

高齢者の認知症予防と住民の健康づくりを目指す。

- ①参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、チラシ等を活用して募集した。
- ②講師は坂下正幸氏（音楽療法士）。認知症予防の講話と音楽、ボイストレーニング体操等の実技トレーニングに取り組んだ。楽器等は講師が用意した。
- ③センターは講師との連絡調整や会場設営などを行った。

○評価委員会から指摘された事項と改善点

- ・指導者が固定されている。

2 準備段階での工夫

- ・参加者の募集について、地域回覧板やチラシ、センターの Facebook などを活用する他、参加されている参加者（老人会の方や地域の町内会の方など）に参加者募集の呼びかけをしていただいた。
- ・使用する楽器の準備、片づけは参加者がこなすよう協力を仰いだ。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・高齢者の認知症予防と住民の健康づくりと、参加者が継続して参加できることを重点とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・各回の参加人数は平均 5 人で、継続して参加される方が多い。
- ・アンケートはしていないが、会話の中で、「運動不足の解消のため」、「健康のため」、「老化防止のため」、「他の参加者と話ができるので参加している」、「講話の内容が深くて楽しんでいる」などの声があった。

4 今後の抱負

- ・前年度（146 人）に比べて総人数が減少している。継続参加されていた方が体調不良で一時的に参加できなかったり、夏の暑さのために外出を控える方が多かったことが影響した。

- ・後半は新規の参加者があり、継続して参加者の募集を続けていく。
- ・講師と参加者との良好な人間関係など、好ましいつながりが形成されている。講師が固定化されていることについては指導者や参加者とも相談していきたい。

事業風景の写真



【事業名】地域課題事業 取組② 健康体操（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第 1,4 木曜日 14 時～15 時 年 24 回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン、本館 2 階旧図書室
- 3 参加人数：59 人/年
- 4 協力団体等：京都市南区地域介護予防推進センター
- 5 予算： 149,000 円 / 決算： 148,360 円

1 事業内容

- ①参加者の募集は、HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシ等を活用した。
- ②京都市南区地域介護予防推進センター（推進センター）と連携した。講師は健康運動指導士で第 1 木曜日に参加し、もう一回は参加者のみで行った。
- ③体操の内容は推進センターが推薦するメニューで、ラジオ体操や筋力トレーニング、整理体操を行った。
- ④活動場所は本館 2 階旧図書室と、空調がないため夏季はサロンを利用した。

○評価委員会から指摘された事項

- ・講座型のスタイルに留まっている。
- ・高齢者に偏っている。

2 準備段階での工夫

- ・実施日について、参加者の希望をヒアリングし推進センターと調整した。
- ・体操の内容について推進センターと相談し、推薦するラジオ体操等の曲に合わせて行う体操を実施した。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・月 2 回の体操を継続することで、生活リズムの改善や体調不良の改善、よりよい健康生活を獲得すること。
- ・健康体操の成果を地域に広げ、住民の健康志向を高めること。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・前年度(118 人)と比べ参加人数が減った。6 月下旬～10 月上旬の暑さのために外出を控えたという方が多かったことが影響している。
- ・熱心に参加される方があり、毎週あった方がいいという意見があるなど、よい習慣になっている。

4 今後の抱負

- ・推進センターからは参加者を増やすための協力をするという声があるので、新規参加者を募るため広報に努めていきたい。

事業風景の写真



【事業名】地域課題事業 取組③ 卓球交流会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和 7 年 9 月 20 日（土）13 時～16 時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数：23 名
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 15,000 円／決算： 16,800 円

1 事業内容

- ①参加者の募集では、地域回覧だけでなく各センターや南青少年活動センター、南老人福祉センターなどにチラシを配布した。
- ②当センターを利用している卓球サークルに協力を呼びかけ、実行委員会を作った。
- ③実施内容やルールは実行委員会で相談して決めていった（交流を重視し時間を決めたラリー形式とする、相手が打ちやすいように心がける、など）。

○評価委員会から指摘された事項

- ・企画運営における双方向性、利用者・団体側の自発性が求められる。

2 準備段階での工夫

- ・実行委員会を作り、事前に話し合いでルールや進行を確認し、当日の進行がスムーズに進むようにした。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・卓球交流会を通じて、地域住民やセンター利用者の交流を促進し、多世代交流を図る。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・前回よりも事前申し込みの人数や、普段はセンターを利用されていない方の参加が増え、様々な方の交流を実施できた。
- ・アンケートを見ると、おおむね好評であった。

4 今後の抱負

- ・アンケートでは高い評価を得ており、継続して実施していきたい。
- ・センターのサポートを減らし、参加者だけで企画、実施ができるようにしていきたい。
- ・事前申し込みの人数は 30 名を超えたが、体調不良などで実際の参加人数は減った。会場となる会議室の広さからいって、ちょうど良い人数であったので、募集人数について検討していきたい。

事業風景の写真



【事業名】地域課題事業 取組④ 鯉のぼりによるまちづくり（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：A.令和8年2月6日（金）17時～18時30分
B.令和8年3月7日（土）14時～16時
C.令和8年3月14日（土）16時30分～18時、15日（日）8時30分～18時
- 2 開催場所：A.上鳥羽小学校
B.上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室、本館2階旧図書室
C.ひと・まち交流館 京都
- 3 参加人数：A.1名 B.14名 C.3名
- 4 協力団体等：鯉のぼり保存会青仁会
- 5 予算：決算 218,000円／62,794円

1 事業内容

- A.鯉のぼりを掲揚する場所探しを行い、京都市立上鳥羽小学校で場所の確認を行った。
- B.センター内で、青仁会の今年度の活動の報告や活動の展示を行った。報告会では、年間の活動の報告以外に、青仁会のメンバーによる手描き鯉のぼりの展示や葦笛の演奏などを実施した。また、昨年も参加していただいた荒野麟太郎氏によるワークショップ（白地の布の鯉のぼりに鱗に見立てて手形を押していく）を行った。
- C.ひと・まち交流館で開催され、市民活動センターと各いきセンが主催となる「みんなの文化祭」に参加し、活動の展示を行った。展示では、修理した鯉のぼりの展示や活動内容のパネル展示をし、青仁会のメンバーが常駐して来場者に活動内容の説明を行った。
- また、これらの他に青仁会の活動の一つである使われなくなった鯉のぼりの収集活動について、センターも協力して収集の受付を行った。また、資料の作成や活動の広報について年間を通じて行った。

2 準備段階での工夫

- ・青仁会では毎年春に鯉のぼりを掲揚する活動を行われているが、次年度からはその場所を使用できなくなったとの相談を受けた。そこで、代わりになる場所探しに協力した。
- ・青仁会にはパソコンやインターネットに強い方がおらず、広報や資料作成をセンターがサポートした。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・鯉のぼり保存会の活動を広く知らせることを目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・青仁会にとって中心的な活動である春の鯉のぼりの掲揚について、地域の協力を得る事で次年度に実施できる見通しが立ち、会の活動への協力ができた。

- ・報告会では地域の方々に、「みんなの文化祭」では来場者やしみセンやいきセンのスタッフになど、上鳥羽地区以外にも活動を知ってもらう機会を得ることができた。

4 今後の抱負

- ・青仁会からは年間を通じて相談があり、活動を支援するためのセンター側の体制作りをしていきたい。
- ・青仁会では共に活動に参加してくれる人を募集されており、センターでできることを検討していきたい。

事業風景の写真

A. 掲揚場所



B. 活動報告会



C. みんなの文化祭



【事業名】地域課題事業 取組⑤ みんなの文化祭（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和8年3月15日（日）9時～17時
- 2 開催場所：ひと・まち交流館 京都
- 3 参加人数：16名
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 71,000 円 / 決算： 22,400 円

1 事業内容

ひと・まち交流館京都で開催される「みんなの文化祭」に、センターを利用されているサークルや団体に参加を呼びかけ、作品や活動の展示を行った。

作品や展示物は、前日にひと・まち交流館京都に搬入して展示作業を行い、文化祭終了後に搬出した。

2 準備段階での工夫

- ・文化祭に参加するサークルや団体には、個別に呼びかけて募った。
- ・作品の搬送にあたっては、参加団体に協力を仰いだ。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

- ・サークル活動の活性化や、参加者同士の交流を目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・作品を出展された方からは好評で、また参加したいとの声があった。
- ・参加者の中には文化祭当日に会場へ来ることができなかった方があり、写真で様子を伝えることになった。

4 今後の抱負

- ・サークルや団体の活動の活性化が見込まれるので、「みんなの文化祭」が実施されれば参加していきたい。
- ・作品の展示作業をセンター職員が行ったが、出展者にも担っていただけるようにしていきたい。

事業風景の写真



【事業名】地域課題事業 取組⑥ いきセンのある地域を知る（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和7年12月14日（日）13時30分～15時30分
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数：10名
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 0円 / 決算： 22,120円

1 事業内容

センターの周辺地域を話題の対象として、地域に長く住まわれている住民とこの地域に興味を持つ市民が集まり、地域の特徴や位置づけについて地図から読み解いていった。

前半と後半に分け、前半は講師から地図の読み解き方法について話していただき、視点やコツを教えていただいた。後半は参加者が3グループに分かれてそれぞれが地図を囲み、地図を見て気づいた点や疑問、思い出といった内容を地図上にポストイットでマーキングしていった。最後に、それぞれのグループが気づきについて発表した。

作成した地図は、後日センターで一つにまとめて館内に貼り出し、さらなる情報提供を募った。

2 準備段階での工夫

- ・センターの周辺を対象とするので、事前に講師と散策し、周辺の街並みについて下調べを行った。また、若い講師の経験にもなるべく、センター利用者の傾向や地域への配慮について、十分な打ち合わせを行った。
- ・ワークショップでは、ただ講師から知識を教えてもらうのではなく、自分たちの住まう地域では何が大事で何に関心を持たれるのか、について参加者が自覚していく契機になるように努めた。
- ・地域のことをよく知る地域の住民や寺院に参加を呼びかけた。
- ・休憩時間などに参加者へ話題を提供にするために、関連する資料や冊子を京都市立図書館と連携し借り出した。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・センターのある地域の特徴や地理的な条件について、参加者と考えること。
- ・今回の成果を次回の事業へも生かし、継続して事業へ参加する人材を発掘すること。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・講師は20代の若手研究者で、参加者には親子での参加があり、全体的に若年齢化が見られた。
- ・ワークショップでは、地域外の参加者から地域からの参加者に対して、地域のことを知り

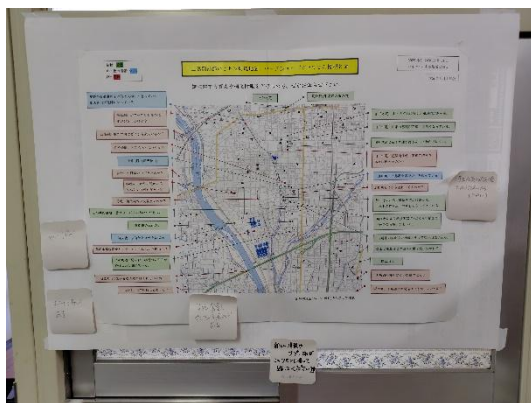
たいという熱心な問いが繰り返された。

- ・講師が教える講座だけでなく、参加者が教える側や探求する側になったりすることで、自主的な活動のイメージを持つことができた。
- ・市民活動の芽を育てていくきっかけとなった。

4 今後の抱負

- ・アンケートからは、次回も参加したいという声があった。今回を「いきセンのある地域を知る」シリーズの初回とし、実施した成果を次の事業に生かして積み重ねていきたい。
- ・次年度にはまち歩きの事業を計画しており、その前段階を実施できた。実施を継続することで“関心のある参加者たちによるゆるやかなコミュニティ”を形成していきたいと思う。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

2. サロン運営・活用事業

※サロン運営・活用事業はアンケートをしていない。

【事業名】ふれあい事業 取組① マージャン交流（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第 1,3 月曜日、第 3 木曜日 10 時～16 時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：534 人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 221,000 円 / 決算： 207,400 円

1 事業内容

- ①参加者は HP、Facebook、ポスター、チラシ等を活用して募集した。
- ②毎月 3 回、第 1,3 月曜日・第 3 木曜日、10 時～16 時に実施。
- ③参加者の中から世話役（代表者）を選び実行委員会を組織して進めた。ルールや活動内容は世話役を中心にして決めていった。
- ④講師はなく、参加者同士が教え合い、初心者にはゲームのルールを熟知している者が教える形とした。

○評価委員会から指摘された事項

- ・企画運営における双方向性、利用者・団体側の自発性。

2 準備段階での工夫

- ・一回に参加する人数が増えたため、卓を 1 台追加した。
- ・手狭になってきたため、サロン内を広く使えるようサロン内の家具の配置を工夫した。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・男女や年齢を問わず、マージャンに関心のある人が集まり、世話役を中心にマージャンを楽しむことで、地域住民の連帯感を広げ、人間関係の構築を図る。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・午前午後を通して参加される方が多く、熱心に参加されている。
- ・新規の参加者は既存の参加者による積極的な声かけによるところが大きい。
- ・初心者に対しては卓を 1 台使って良く知った方が教えておられ、初心者でも始められやすいように工夫をされている。
- ・大会を開くなどの企画運営を自主的に実践されている。

4 今後の抱負

- ・4 台の麻雀卓を使用することになったが、サロンでは収容できる人数が限られており、かなり手狭になってきた。参加者は増やしていきたいが検討していきたい。
- ・出欠票や名簿などをセンターが作成しているが、参加者が担えるように促していきたい。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組② 造形教室（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第4日曜日 10時～正午 年12回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：61人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 161,000 円 / 決算： 159,960 円

1 事業内容

俳句と俳画の制作を中心に行った。

①HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシで参加者を募集した。

②創作活動は、次のように進めた。

- 1.参加者は実施日が来るまでに各自俳句の構想を考え、メモやノートに書いて参加する。
- 2.講師と俳句の表現方法について相談し、推敲する。
- 3.詠んだ句を色紙に墨で表現する。
- 4.ちぎり絵や水彩画など絵を添えて完成させる。1回につき1作品の完成を目指す。

③作品はセンター内に掲示したり、Facebookへ掲載したり、「みんなの文化祭」に出展するなどして作品を発表する機会を設けた。

○評価委員会から指摘された事項

- ・高齢者に偏っている。

2 準備段階での工夫

- ・画材（色紙、筆、墨、ちぎり紙など）を準備し、必要があれば参加者が利用できるようにしておいた。
- ・センターは講師との日程の調整や連絡、活動のサポートにあたった。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・参加者は俳句を詠むこと、絵を描くことの技能アップを目指す。
- ・作品を発表して、俳句を地域に広める。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・どの参加者も1回に1作品を完成させることを目標に取り組まれている。新しい参加者も、創作に励まれている。
- ・未完成の作品は持ち帰って完成させたり、他の参加者の俳句の推敲に参加したりするなど、意欲的に参加されている。
- ・参加者による声かけで新しい参加者が増えているものの、高齢者のみの参加にとどまって

いる。

4 今後の抱負

- ・俳句の推敲を一人ずつ順番に行っているため、参加者が多いと時間がかかり、色紙に完成させることができない参加者があった。講師からも時間がかかってしまうと相談を受けており、進め方について検討していきたい。
- ・参加者が高齢者のみとなっている。講師と参加者と相談し、若年層の参加について考えていきたい。また、講師に頼らない創作の場として活動していくことができるか、参加者と考えていきたい。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組③ フラワー教室～花アトリエ講師育成実践講習会～（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第2土曜日 10時～正午 年11回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：59人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 291,000円 / 決算： 286,000円

1 事業内容

地域在住のフラワーデザイナーが講習会を開催。受講者が講習会の成果を地域に広げていく。

- ①6年度の講習会を修了した方が参加者となった。
- ②指導は講師が行い、センターは連絡調整や運営をサポートした。
- ③前期と後半に分けて進めた。前期は、参加者が講師役を務めて順番に教える側に回ること
で技量アップを目指した。後半は、フラワーコンテストの準備を中心に進めた。
- ④参加費は材料代（花代、花器含む）として1回3,300円を徴収した。
- ⑤参加者の作品をフラワーデザインコンテストに出展した。

○評価委員会から指摘された事項

- ・講座型のスタイルにとどまっており、市民活動支援の取組が求められる。
- ・講師が固定化されている。

2 準備段階での工夫

- ・センターは講師との連絡調整や相談、会場設営をサポートした。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・参加者が講師としても活躍するための力をつけ、その成果を地域に広げていく。
- ・地域にフラワー文化が広がっていくことが期待される。
- ・参加者も目的があるため、目標に向かって努力をされる効果が期待される。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・コンテスト（日本フラワーデザイナー協会京都支部主催「第27回京都府立植物園フラワーデザインコンテスト」）に4名出展し、3名が入賞された。成果の一つといえる。
- ・事業の実施時間以外にコンテスト作品の制作で利用されるなど、フラワーアレンジメントの活動が活発になってきているように見受けられる。

4 今後の抱負

- ・参加者の活動の場をセンターの外へ広げていきたいと考えており、次年度には児童館との連携を予定している。

事業風景の写真



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1	利用料金の収入実績
	令和7年度実績：745,800円（前年度比119% 令和6年度実績：627,300円）
	{ 内訳 会議室等： 745,800円 付属設備： 0円 ※自主事業分を除く }
2	管理運営に係る経費の収支決算
	別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

（1）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和7年11月実施

【調査項目】窓口サービス

（2）センター独自アンケート

6事業（上鳥羽六斎念仏発表会、勉強会、卓球交流会、鯉のぼりによるまちづくり、みんなの文化祭、いきセンのある地域を知る）について、下記の設問にてアンケートを実施した。値は6事業の平均値とした。

設問1 年代

設問2 どうやって知りましたか

設問3 実施したことについて

設問4 内容について

設問5 センターの対応

設問6 自由記載

2 利用者満足度把握の結果

（1）全センター共通窓口サービス 7項目の平均

満足	普通	不満	無回答
88.4%	11.1%	0%	0.5%

（2）センター独自アンケート

設問1 年代

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	未記入
平均	4.3%	3.5%	2.3%	7.7%	3.5%	8%	52.8%	16.7%	1.2%

設問2 どうやって知りましたか

	センター	チラシ	知人	新聞	ネット	その他	未記入
平均	49.7%	10.7%	29.3%	0%	5.8%	3.4%	1.2%

設問3 実施したことについて

	よかった	どちらでもよい	よくなかった	未記入
平均	92.2%	1.8%	0%	6%

設問4 内容について

	満足	普通	不満	未記入
平均	85.3%	11.7%	0%	3%

設問5 センターの対応

	満足	普通	不満	未記入
平均	81.2%	16.3%	0%	2.5%

設問6 自由記載

○上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～

（発表会）

- ・実際に支えている人たちの苦労ややりがいがよく判りました。
- ・地域振興に役立ち、文化継承上意義深い。
- ・四つ太鼓の体験ができたのは、楽しかったです
- ・また機会があれば、是非やってほしいです。

（勉強会）

- ・質問しやすいのが一番良いと思います。地域のことを知るのが楽しいです。
- ・久しぶりに頭を使った感じがした。
- ・内容が深く勉強になりました

○卓球交流会

- ・いろいろな人とゲームが出来て楽しかったです。
- ・いろいろな方と卓球できて楽しかったです。
- ・また参加させて下さい。初めての方と対戦でき楽しかったです。

○鯉のぼりによるまちづくり

- ・非常に良い企画で楽しませていただきました。準備が大変だと思います。
- ・いろいろな事業活動が増えてとても良い事だと思います。
- ・日本の文化のこいのぼりを子供達に伝えていきたい。いきいきセンターは老人だけでなく、いろんな行事で身近な集いの場所であってほしい。

○みんなの文化祭

- ・今回は見学に行かなかったのでよくわかりませんが、次回は行きたいと思います。
- ・昨年と違い今年は大分よくなっている 2 回目だからと思う。

○いきセンのある地域を知る

- ・また続きがあれば、来たいです。
- ・大正時代の地図（京都市内）や昭和 28 年の地図や現在の地図を見せて頂き、わからなかった地名など大変勉強になりました。
- ・地図好きの方が多く、各自の関心の持ち方が非常におもしろかった。
- ・ワークショップたのしかったです。地元に住んでおられる方、地図に詳しい方のお話をいろいろかがえてよかった。

3 意見等への主な対応状況

利用者からの意見で対応したものを記載してください。

- ・以前から、サロンの利用者から畳が古くなって毛羽立っているとの指摘をいただいております、今回上敷きを設置した。
- ・以前からダンス利用の方から要望あり、折り畳みの姿見を導入した。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

○取り組んだ事業等の総括

- ・貸館の利用は増加しており、定期利用されるグループも増えて未利用時間の利用も増えている。新しい利用者はネット検索でセンターを探して問い合わせをされることが多く、貸館情報の発信は上手くいっていると感じる。
- ・昨年に続いて、地域で活動されているグループ（鯉のぼり保存会青仁会）の支援を実施した。今年度は、センターが会と地域の小学校との橋渡しをすることで、会の活動を広げる一助になれたと感じている。また、「いきセンのある地域を知る」では、地域に根差した自主的な活動に関心を持つ人材の発掘を目指して取り組んだ。その成果については次年度にも繋げていこうと考えている。
- ・令和4年度から実施しているサロン運営活用事業の“マージャン交流”では、参加者が増えているだけでなく、参加者が自主的に企画運営をされるようになってきている。またセンターを利用されている他のサークルからも参加される方があり、交流の場になってきている。サロン運営活用事業については、引き続き参加者の交流の場としつつ、活動の成果を外へ広げるよう促し自走化へ向けていきたいと考えている。

○今後、解決すべき課題等

- ・評価委員会からの指摘（参加者の固定化や講座制が目立つこと、双方向型の市民活動の支援）については、今後も改善していく。
- ・職員間で貸館業務や事業の実施についての力量にばらつきがあり、業務に偏りが生じている。

○次年度に向けた対応

- ・利用促進については、一般の利用だけでなく事業者利用でも、利用例などの資料を充実させセンターの周辺から広げていきたい。
- ・事業については、各事業にどうやって市民活動支援の側面を取り入れるか、講座型ではなくワークショップ型の参加入口をつくっていくことを中心に、見直していく。
- ・定例ミーティングを開催することを通じて、センター職員のスキルアップに努めていきたい。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

○施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項
特になし。

○年間事業計画にある事業の中で、実施できなかった事業
なし。